

## 第二節 動物

### 一 動物の概況

勝山町ではこれまでに動物の本格的な調査は行われたことがない。ここでは町史編纂のための三年間の調査と住民の聞き取り調査及び周辺地域の調査報告書などに基づいてまとめたが、まだ不十分な点が多々あり、今後の本格的な調査に待ちたい。

これまでに述べたように勝山町には大規模な山地は存在しない。山は標高が低いうえに傾斜が急で保水力に乏しく、しかも自然林も広くないので諸動物の生息環境としては優れているとはいえない。動物は特定の部分に定着して生息しているものものではないが、哺乳類、鳥類、昆虫類などその多くは移動するものであり、特別な環境を選ぶものではない限り、周辺の市町村の動物相と大きな違いは認められない。

水生動物にとつては、山間部から山麓部にかけてたくさん溜池があるが、その多くが改修されており、魚類は別として、トノサマガエルや水生昆虫などの幼生の成育に適したヨシやマコモなどの茂る水深の浅い部分ごく少ない。河川もほとんど部分で改修され、側壁はブロック、堰はコンクリート製で川の中の大きな石は取り除かれ、従来の山川の姿はどこにもな

く、多くの魚類や甲殻類などのすみかを奪ってしまっている。したがって町内から絶滅したり、減少した動物が多々あると考えられる。

### 二 脊椎動物

#### 1 哺乳類

昔から生息していた大形の哺乳類としてイノシシ、キツネ、タヌキ、アナグマ、中形のものとして、ニホンザル、テン、ホンドイタチ、チョウセンイタチ、キュウシユウノウサギ、小形のものとしてスミスネズミ、ハタネズミ、ヒメネズミ、アカネズミ、ホンドハツカネズミ、ドブネズミ、カヤネズミなどのネズミ類、キュウシユウヒミズ、コウベモグラなどのモグラ類、キクガシラコウモリ、モモジロコウモリ、イエコウモリ、ユビナガコウモリなどのコウモリ類がいる。

イノシシは、現在頭数が非常に多く、山間地では農作物の被害が多発していて有害鳥獣として駆除が行われている。イノシシは昭和三十年代までは味見峠から竜ヶ鼻にかけて少数いただけであるが、昭和四十年代以降に急増したものである。タヌキは平成時代に入って急増し、山地での食物不足から人里に降りてきてすみつき、姿を見ることが多くなっていたが、平成十三年ごろに一種の疥癬病が流行し、現在は激減している。キツネはもともと少数であり、警戒心が強いいため人目に触れることは